

第11期末（2024年2月26日）

基準価額	33,476円
純資産総額	18億円
騰落率	22.3%
分配金	0円

DCニッセイ 日本株グロースファンド

追加型投信／国内／株式

運用報告書（全体版）

作成対象期間：2023年2月28日～2024年2月26日

第11期（決算日 2024年2月26日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「DCニッセイ日本株グロースファンド」は、このたび第11期の決算を行いました。

当ファンドは、「ニッセイ国内グロース株式マザーファンド」受益証券への投資を通じて、実質的に国内の金融商品取引所上場株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

コールセンター **0120-762-506**

(9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く)

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-6

運用経過

2023年2月28日～2024年2月26日

基準価額等の推移



第11期首	27,379円	既払分配金	0円
第11期末	33,476円	騰落率 (分配金再投資ベース)	22.3%

(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドはベンチマークを設けていません。

■ 基準価額の主な変動要因

<上昇要因>

- ・2023年4月上旬から6月中旬にかけて、相対的な割安感から海外投資家の大幅な買い越しが続き、国内株式市場が上昇したこと
- ・11月上旬から中旬にかけて、米連邦準備制度理事会 (FRB) による追加利上げ観測が後退したことや日銀のイールドカーブ・コントロール (長短金利操作、YCC) が微修正にとどまったことが好感され、国内株式市場が上昇したこと
- ・年明け以降、海外投資家の買いや新しい少額投資非課税制度 (NISA) による資金流入への期待感から国内株式市場が上昇したこと

<下落要因>

- ・2023年3月中旬に米銀の経営破綻をきっかけとした欧米の金融システム不安を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、国内株式市場が下落したこと
- ・9月上旬から10月下旬にかけて、日米長期金利の上昇や中東情勢の緊迫化などの地政学リスクの高まりを受けて国内株式市場が下落したこと

1万口当たりの費用明細

項目	第11期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	481円	1.591%	信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は30,210円です。
(投信会社)	(232)	(0.768)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(232)	(0.768)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受託会社)	(17)	(0.055)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	13	0.044	
(株式)	(12)	(0.038)	売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 / 期中の平均受益権口数
(先物・オプション)	(2)	(0.006)	売買委託手数料：有価証券等の売買・取引の際に仲介人に支払う手数料
その他費用	3	0.009	その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数
(監査費用)	(3)	(0.009)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
(その他)	(0)	(0.000)	・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
合計	497	1.644	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

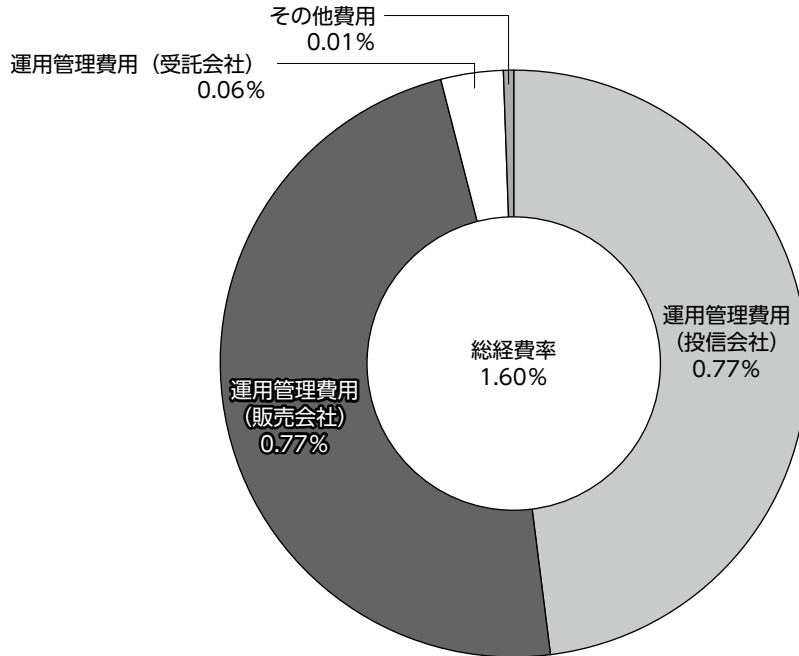
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

■ 総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.60%**です。



(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

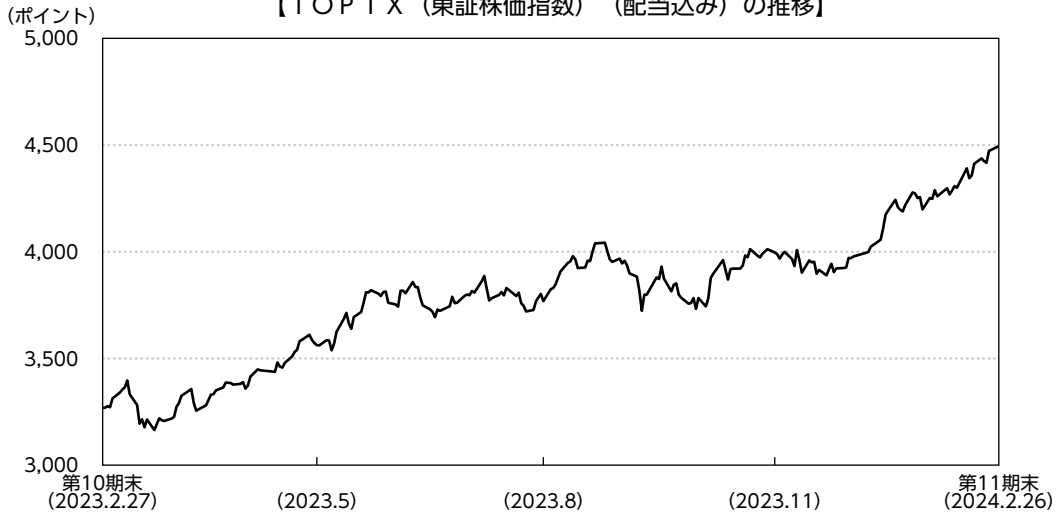
(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

国内株式市況

【TOPIX（東証株価指数）（配当込み）の推移】



(注) FactSetのデータを使用しています。

当期の国内株式市場は、海外投資家による買いがけん引するかたちで大幅に上昇して当期末を迎えました。

2023年3月中旬に米地銀の経営破綻をきっかけとした欧米の金融システム不安を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり下落する場面もありましたが、各国の金融当局による迅速な対応が好感されて早々に持ち直しました。

4月以降は日本株の相対的な割安感から海外投資家の大幅な買い越しが続き、右肩上がりの展開となりました。

6月中旬以降は、利益確定売りや米長期金利の上昇が上値を抑える一方、堅調な国内企業業績や米ドル高円安が下値を支え、ボックス圏での推移となりました。

年明け以降は、米株高や米ドル高円安の進行、海外投資家の買いや新NISAによる資金流入への期待感から一段高となり、上昇基調の中で当期末を迎えました。

ポートフォリオ

■当ファンド

マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保った運用を行いました（ただし、当ファンドから信託報酬等の費用を控除する関係などから、当ファンドの収益率はマザーファンドとは必ずしも一致しません）。

■マザーファンド

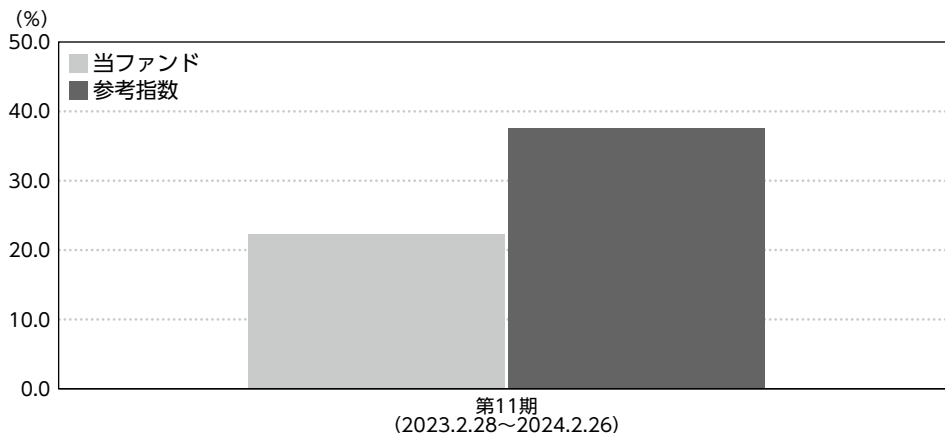
生活者の視点から、Clean（健全な生活）・Creative（創造的な生活）・Comfortable（快適な生活）の創出に貢献する商品やサービスを提供する企業を選択して、投資運用を行うことを基本方針としています。

当期も上記方針に基づき、企業取材等の投資調査を行うことにより、個別銘柄の投資価値を把握し、売買を実施しました。株式組入比率（株式先物を含む）は期を通して高水準を維持しました。

主な売買銘柄は以下の通りです。

	銘柄	判断理由等
新規 買付	日産化学、ショーボンドホールディングス、エービーシー・マート、ニチレイ、ゴールドウイン、タクマ	成長性など
全売却	住友電気工業、花王、ケーズホールディングス、カシオ計算機	株価バリュエーション（業績や成長性を基準とした株価の割高・割安の度合い）など

参考指数との差異



当ファンドはベンチマークを設けていません。参考指数はTOPIX（東証株価指数）（配当込み）です。当期の税引前分配金再投資基準価額騰落率は+22.3%となり、参考指数騰落率（+37.5%）を下回りました。これはマザーファンドの個別銘柄要因において、バイカレント・コンサルティング、ダイキン工業、エムスリー等がマイナスに働いたことなどによるものです。

（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

当期の分配金は、基準価額水準、市況動向等を勘案した結果、見送らせていただきました。なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	当期 2023年2月28日~2024年2月26日
当期分配金（税引前）	—
対基準価額比率	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	23,476円

（注1）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■当ファンド

引き続き、マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に国内の金融商品取引所上場株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

■マザーファンド

今後の国内株式市場は、これまでの急速な上昇に加え、日米金融政策の先行きを巡る不透明感や中国の景気不安、米中対立や中東情勢を巡る地政学リスクの高まり等、懸念材料は多く、当面は下振れリスクの高い状況が続くと考えています。

相場全体の一段の上昇は見込みづらい中、外部環境に左右されず、独自の強みを背景に中長期的な業績拡大が見込める企業が選好されると考えています。

引き続き徹底した調査・分析に基づき、当マザーファンドが着目するClean（健全な生活）・Creative（創造的な生活）・Comfortable（快適な生活）創出への貢献を通じ、中長期的に業績拡大が見込まれる企業の発掘を基本姿勢とした運用を行ってまいります。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

組入ファンド

	第11期末 2024年2月26日
ニッセイ国内グロース株式 マザーファンド	100.0%

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

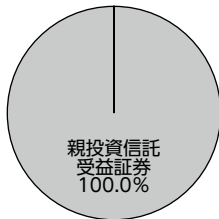
(注2) 組入全ファンドを記載しています。

純資産等

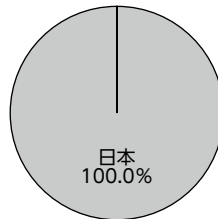
項目	第11期末 2024年2月26日
純資産総額	1,837,826,253円
受益権総口数	548,995,535口
1万口当たり基準価額	33,476円

(注) 当期間中における追加設定元本額は105,675,058円、同解約元本額は114,530,764円です。

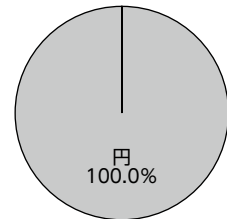
資産別配分



国別配分



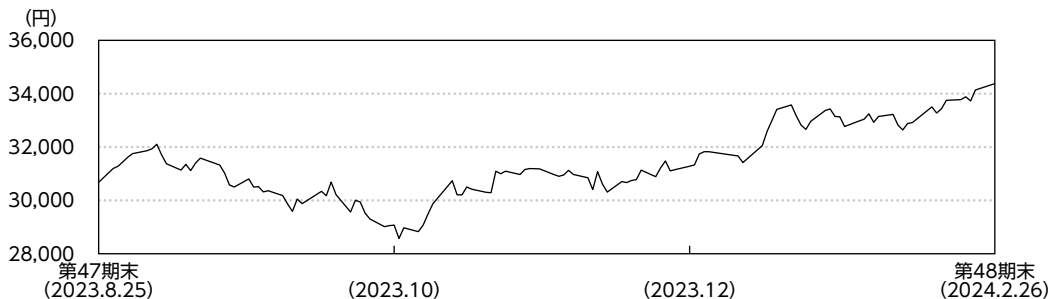
通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2024年2月26日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

ニッセイ国内グロース株式マザーファンドの概要

■ 基準価額の推移



■ 上位銘柄

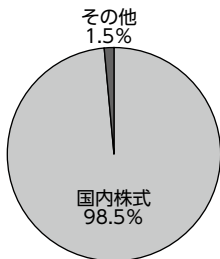
銘柄名	通貨	比率
ディスコ	円	4.3%
S MC	円	3.5
信越化学工業	円	3.5
キーエンス	円	3.4
アドバンテスト	円	3.3
スクウェア・エニックス・ホールディングス	円	3.0
ダイフク	円	2.8
野村総合研究所	円	2.8
シークス	円	2.6
大塚商会	円	2.6
組入銘柄数		58

■ 1万口当たりの費用明細

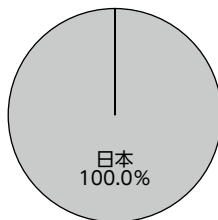
2023.8.26~2024.2.26

項目	金額
売買委託手数料 (株式)	7円 (6)
(先物・オプション)	(1)
その他費用 (その他)	0 (0)
合計	7

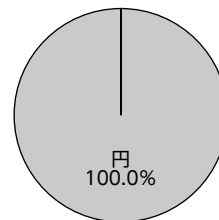
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日(2024年2月26日現在)のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)の組入有価証券明細表をご参照ください。

最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配前)	税引前 分配金	期中 騰落率	(ご参考)	参考指数	期中 騰落率	株式 組入比率	株式 先物比率	純資産 総額
				基準価額+ 累計分配金					
7期(2020年2月25日)	円 23,406	円 0	% 7.0	円 23,406	19,912	% 2.4	% 96.3	% -	百万円 1,026
8期(2021年2月25日)	31,750	0	35.6	31,750	24,283	22.0	97.3	-	1,477
9期(2022年2月25日)	27,887	0	△12.2	27,887	24,156	△ 0.5	97.6	-	1,424
10期(2023年2月27日)	27,379	0	△ 1.8	27,379	26,358	9.1	97.0	-	1,527
11期(2024年2月26日)	33,476	0	22.3	33,476	36,247	37.5	98.5	-	1,837

(注1) 基準価額の騰落率は分配金(税引前)込みです。

(注2) 「基準価額+累計分配金」は、当該決算期の基準価額(分配前)に当該決算期以前の税引前分配金の累計額を加えたものです。

(注3) 参考指数は設定時を10,000として指数化しています。

(注4) 株式組入比率には新株予約権証券を含みます。以下同じです。

(注5) 先物比率は買建比率-売建比率です。以下同じです。

(注6) 当ファンドはマザーファンドを組み入れるため、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しています。以下同じです。

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率	参考指数	騰落率	株式 組入比率	株式 先物比率
(期首)2023年2月27日	27,379	-	26,358	-	97.0	-
2月末	27,525	0.5	26,366	0.0	97.0	-
3月末	28,081	2.6	26,814	1.7	96.3	-
4月末	28,517	4.2	27,538	4.5	96.5	-
5月末	30,268	10.6	28,534	8.3	97.1	-
6月末	31,643	15.6	30,688	16.4	98.5	-
7月末	31,308	14.4	31,146	18.2	97.9	-
8月末	31,029	13.3	31,281	18.7	97.6	-
9月末	29,761	8.7	31,440	19.3	95.0	-
10月末	28,462	4.0	30,499	15.7	93.9	-
11月末	30,427	11.1	32,153	22.0	97.8	-
12月末	31,069	13.5	32,080	21.7	98.4	-
2024年1月末	32,409	18.4	34,586	31.2	98.0	-
(期末)2024年2月26日	33,476	22.3	36,247	37.5	98.5	-

(注) 期末基準価額は分配金(税引前)込み、騰落率は期首比です。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

2023年2月28日～2024年2月26日

	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
ニッセイ国内グロース株式マザーファンド	103,820	318,572	121,170	374,228

(注) 単位未満は切り捨てています。

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	ニッセイ国内グロース株式マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	33,461,158千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	24,297,796千円
(c) 売買高比率 (a)／(b)	1.37

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注2) 単位未満は切り捨てています。

利害関係人との取引状況等

2023年2月28日～2024年2月26日

当期における利害関係人との取引はありません。

親投資信託残高

2024年2月26日現在

種類	期首 (前期末)	当期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ニッセイ国内グロース株式マザーファンド	552,037	534,686	1,838,146

(注1) 単位未満は切り捨てています。

(注2) 当期末におけるニッセイ国内グロース株式マザーファンド全体の口数は4,841,792千口です。

投資信託財産の構成

2024年2月26日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
ニッセイ国内グロース株式マザーファンド	1,838,146	99.1
コール・ローン等、その他	15,999	0.9
投資信託財産総額	1,854,145	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

DCニッセイ日本株グロースファンド

資産、負債、元本および基準価額の状況

(2024年2月26日現在)

項目	当期末
(A) 資産	1,854,145,754円
コール・ローン等	13,348,202
ニッセイ国内グロース株式マザーファンド(評価額)	1,838,146,549
未収入金	2,651,003
(B) 負債	16,319,501
未払解約金	2,492,047
未払信託報酬	13,752,243
その他未払費用	75,211
(C) 純資産総額(A-B)	1,837,826,253
元本	548,995,535
次期繰越損益金	1,288,830,718
(D) 受益権総口数	548,995,535口
1万口当たり基準価額(C/D)	33,476円

(注) 期首元本額	557,851,241円
期中追加設定元本額	105,675,058円
期中一部解約元本額	114,530,764円

損益の状況

当期 (2023年2月28日~2024年2月26日)

項目	当期
(A) 配当等収益	△ 2,371円
受取利息	339
支払利息	△ 2,710
(B) 有価証券売買損益	334,567,413
売買益	365,869,199
売買損	△ 31,301,786
(C) 信託報酬等	△ 26,861,810
(D) 当期損益金(A+B+C)	307,703,232
(E) 前期繰越損益金	95,199,794
(分配準備積立金)	(253,695,272)
(繰越欠損金)	(△ 158,495,478)
(F) 追加信託差損益金*	885,927,692
(配当等相当額)	(623,587,716)
(売買損益相当額)	(262,339,976)
(G) 合計(D+E+F)	1,288,830,718
次期繰越損益金(G)	1,288,830,718
追加信託差損益金	885,927,692
(配当等相当額)	(623,587,716)
(売買損益相当額)	(262,339,976)
分配準備積立金	402,905,397
繰越欠損金	△ 2,371

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。

(注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含みます。

(注3) (E)前期繰越損益金とは、分配準備積立金と繰越欠損金の合計で、前期末の金額に、期中一部解約により変動した金額を調整して算出しています。

(注4) (F)追加信託差損益金*とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、配当等相当額と売買損益相当額に区分します。前期末の金額に、期中追加設定および一部解約により変動した金額を調整して算出しています。

分配金の計算過程

項目	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	149,210,125円
(c) 信託約款に定める収益調整金	885,927,692円
(d) 信託約款に定める分配準備積立金	253,695,272円
(e) 分配対象額(a+b+c+d)	1,288,833,089円
(f) 分配対象額(1万口当たり)	23,476.20円
(g) 分配金	0円
(h) 分配金(1万口当たり)	0円

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式	
信 託 期 間	無期限	
運 用 方 針	ニッセイ国内グロース株式マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に国内の金融商品取引所上場株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。	
主要運用対象	DCニッセイ日本株グロースファンド	ニッセイ国内グロース株式マザーファンド受益証券
	ニッセイ国内グロース株式マザーファンド	国内の金融商品取引所上場株式等
運用方法	DCニッセイ日本株グロースファンド	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への投資は行いません。
	ニッセイ国内グロース株式マザーファンド	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への投資は行いません。
分 配 方 針	毎決算時に、原則として経費控除後の配当等収益および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。	

ニッセイ国内グロース株式 マザーファンド

運用報告書

第 48 期

(計算期間：2023年8月26日～2024年2月26日)

運用方針	①主に国内の成長が期待される株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標にアクティブ運用を行います。	主要運用 対象	国内の金融商品取引所上場株式等
	②21世紀の成長企業群を「生活者」の視点から「3つのC」ととらえ、「健全な生活＝Clean」、「創造的な生活＝Creative」、「快適な生活＝Comfortable」の創出に貢献する企業の株式を選別します。		運用方法
			以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への投資は行いません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

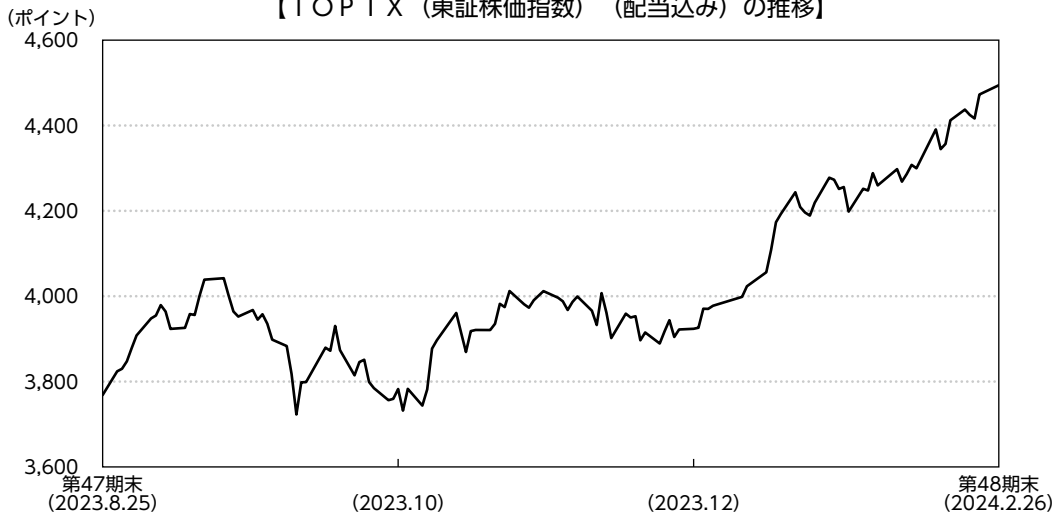
東京都千代田区丸の内1-6-6

運用経過

2023年8月26日～2024年2月26日

国内株式市況

【TOPIX（東証株価指数）（配当込み）の推移】



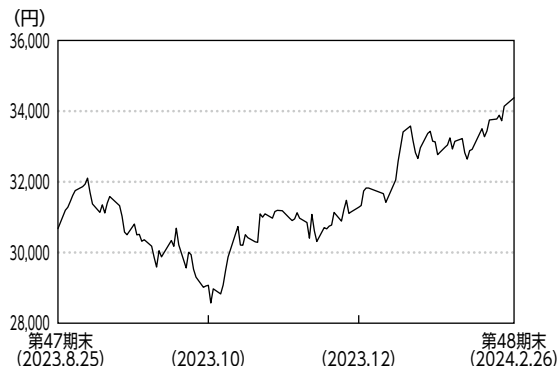
(注) FactSetのデータを使用しています。

当期の国内株式市場は、年明け以降に強まった海外投資家による買いがけん引するかたちで大幅に上昇して当期末を迎えました。

期初から年末にかけては利益確定の売りや日米長期金利の上昇が上値を抑える一方、堅調な国内企業業績や米ドル高円安が下値を支え、ボックス圏での推移となりました。

年明け以降は、米株高や米ドル高円安の進行、海外投資家の買いや新NISAによる資金流入への期待感から一段高となり、上昇基調の中で当期末を迎えました。

基準価額等の推移



(注) 当マザーファンドはベンチマークを設けていません。

■ 基準価額の主な変動要因

<上昇要因>

- ・ 11月上旬から中旬にかけて、米連邦準備制度理事会（F R B）による追加利上げ観測が後退したことや日銀のイールドカーブ・コントロール（長短金利操作、Y C C）が微修正にとどまったことが好感され、国内株式市場が上昇したこと
- ・ 年明け以降、海外投資家の買いや新しい少額投資非課税制度（N I S A）による資金流入への期待感から国内株式市場が上昇したこと

<下落要因>

- ・ 9月上旬から10月下旬にかけて、日米長期金利の上昇や中東情勢の緊迫化などの地政学リスクの高まりを受けて国内株式市場が下落したこと

ポートフォリオ

生活者の視点から、Clean（健全な生活）・Creative（創造的な生活）・Comfortable（快適な生活）の創出に貢献する商品やサービスを提供する企業を選択して、投資運用を行うことを基本方針としています。

当期も上記方針に基づき、企業取材等の投資調査を行うことにより、個別銘柄の投資価値を把握し、売買を実施しました。株式組入比率（株式先物を含む）は期を通して高水準を維持しました。

主な売買銘柄は以下の通りです。

	銘柄	判断理由等
新規買付	エービーシー・マート、ニチレイ、ゴールドウイン、タクマ	成長性など
全売却	花王、ケースホールディングス、カシオ計算機	株価バリュエーション（業績や成長性を基準とした株価の割高・割安の度合い）など

参考指数との差異

当マザーファンドはベンチマークを設けていません。参考指数はTOPIX（東証株価指数）（配当込み）です。

当期の基準価額騰落率は+12.1%となり、参考指数騰落率（+19.3%）を下回りました。

これは個別銘柄要因において、バイカレント・コンサルティング、バンダイナムコホールディングス、オービック等がマイナスに働いたことなどによるものです。

今後の運用方針

今後の国内株式市場は、これまでの急速な上昇に加え、日米金融政策の先行きを巡る不透明感や中国の景気不安、米中対立や中東情勢を巡る地政学リスクの高まり等、懸念材料は多く、当面は下振れリスクの高い状況が続くと考えています。

相場全体の一段の上昇は見込みづらい中、外部環境に左右されず、独自の強みを背景に中長期的な業績拡大が見込める企業が選好されると考えています。

引き続き徹底した調査・分析に基づき、当マザーファンドが着目するClean（健全な生活）・Creative（創造的な生活）・Comfortable（快適な生活）創出への貢献を通じ、中長期的に業績拡大が見込まれる企業の発掘を基本姿勢とした運用を行ってまいります。

お知らせ

約款変更

デリバティブ取引の利用目的を明確化するため、関連条項に所要の変更を行いました。

(2023年11月25日)

最近5期の運用実績

決算期	基準価額		参考指数	期中騰落率		株式組入比率	株式先物比率	純資産総額
	円	%		%	%			
44期(2022年2月25日)	27,733	△12.0	16,256	△ 2.1	97.6	—	50,055	
45期(2022年8月25日)	28,930	4.3	17,361	6.8	97.7	—	37,053	
46期(2023年2月27日)	27,671	△ 4.4	17,737	2.2	97.0	—	36,629	
47期(2023年8月25日)	30,677	10.9	20,453	15.3	97.3	—	25,907	
48期(2024年2月26日)	34,378	12.1	24,393	19.3	98.5	—	16,645	

(注1) 参考指数は設定時を10,000として指数化しています。

(注2) 株式組入比率には新株予約権証券を含みます。以下同じです。

(注3) 先物比率は買建比率－売建比率です。以下同じです。

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数	騰落率		株式組入比率	株式先物比率
	円	%		%	%		
(期首)2023年8月25日	30,677	—	20,453	—	97.3	—	
8月末	31,616	3.1	21,050	2.9	97.6	—	
9月末	30,362	△ 1.0	21,157	3.4	95.0	—	
10月末	29,078	△ 5.2	20,524	0.4	93.9	—	
11月末	31,126	1.5	21,637	5.8	97.8	—	
12月末	31,824	3.7	21,588	5.6	98.4	—	
2024年1月末	33,244	8.4	23,275	13.8	98.0	—	
(期末)2024年2月26日	34,378	12.1	24,393	19.3	98.5	—	

(注) 騰落率は期首比です。

1万口当たりの費用明細

2023年8月26日～2024年2月26日

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
売買委託手数料 (株式)	7円	0.023%	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買・取引の際に仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(6)	(0.020)	
	(1)	(0.003)	
その他費用 (その他)	0	0.000	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 ・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
	(0)	(0.000)	
合計	7	0.023	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（31,366円）で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

売買および取引の状況

2023年8月26日～2024年2月26日

(1) 株式

		買付		売付	
		株数	金額	株数	金額
国内	上場	千株	千円	千株	千円
		714 (152)	1,923,886	3,650	12,720,778

(注1) 金額は受渡代金です。以下同じです。

(注2) ()内は株式分割、合併などによる増減分で、上段の数字には含まれていません。

(注3) 株数および金額の単位未満は切り捨てています。ただし、株数および金額が単位未満の場合は、小数で記載しています。

(2) 先物取引の種類別取引状況

種類別	買建		売建	
	新規買付額	決済額	新規売付額	決済額
国内 株式先物取引	百万円 11,821	百万円 11,850	百万円 -	百万円 -

(注) 単位未満は切り捨てています。

ニッセイ国内グロース株式マザーファンド

主要な売買銘柄

2023年8月26日～2024年2月26日

株式

銘柄	買付			銘柄	売付		
	株数	金額	平均単価		株数	金額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
エービーシー・マート	121	284,256	2,331	オービック	18	452,079	24,703
ニチレイ	83	267,564	3,196	SMC	6	451,079	70,481
ゴールドウイン	22	247,380	11,043	ダイキン工業	16	423,062	25,182
スクウェア・エニックス・ホールディングス	36	180,127	4,989	大塚商会	64	401,295	6,260
アイカ工業	47	165,931	3,515	村田製作所	78	394,896	5,062
タクマ	95	151,364	1,578	野村総合研究所	92	392,103	4,243
プレステージ・インターナショナル	197	116,050	588	朝日インテック	128	377,358	2,938
KDDI	22	102,362	4,489	オーエスジー	194	361,219	1,857
ショーボンドホールディングス	13	81,473	5,990	バンダイナムコホールディングス	107	355,058	3,309
日産化学	13	79,534	6,071	キーエンス	6	354,512	58,116

(注1) 金額は受渡代金です。

(注2) 株数および金額の単位未満は切り捨てています。ただし、株数および金額が単位未満の場合は、小数で記載しています。

組入有価証券明細表

2024年2月26日現在

国内株式 上場株式

銘柄	期首(前期末)		当期末		銘柄	期首(前期末)		当期末	
	株数	株数	株数	評価額		株数	株数	株数	評価額
	千株	千株	千株	千円		千株	千株	千株	千円
建設業 (1.9%)					医薬品 (2.1%)				
ショーボンドホールディングス	64	48	307,686		塩野義製薬	41	33	244,152	
食料品 (3.2%)					ペプチドリーム	120	65	99,201	
ヤクルト本社	20	22	70,070		機械 (18.7%)				
明治ホールディングス	8	4	15,612		タクマ	-	95	178,374	
アリアケジャパン	39	21	116,312		オーエスジー	382	187	402,937	
ニチレイ	-	83	318,562		ディスコ	27	15	713,640	
繊維製品 (1.2%)					SMC	13	6	590,203	
ゴールドウイン	-	22	202,608		クボタ	92	50	108,381	
化学 (9.4%)					ダイキン工業	36	19	424,367	
日産化学	57	44	277,677		ダイフク	242	132	459,360	
信越化学工業	147	90	578,723		マキタ	95	51	197,473	
アイカ工業	118	111	391,635		電気機器 (16.7%)				
花王	24	-	-		ニデック	66	33	190,209	
ライオン	76	41	55,078		オムロン	59	32	187,660	
ユニ・チャーム	85	46	236,262		ソニーグループ	38	20	272,431	

ニッセイ国内グロース株式マザーファンド

銘柄	期首(前期末)		当期末	
	株数	株数	株数	評価額
	千株	千株	千株	千円
アズビル	105	64	294,710	
アドバンテスト	33	78	554,288	
キーエンス	14	8	567,200	
シスメックス	84	37	308,164	
カシオ計算機	182	—	—	
ファナック	52	28	121,694	
村田製作所	75	80	242,080	
精密機器 (4.0%)				
HOYA	36	18	362,124	
朝日インテック	231	103	301,017	
その他製品 (2.5%)				
パンダイナムコホールディングス	234	134	405,177	
情報・通信業 (15.7%)				
野村総合研究所	202	109	458,854	
オービック	37	18	426,640	
トレンドマイクロ	46	15	111,720	
大塚商会	129	65	429,612	
KDDI	40	45	204,525	
NTTデータグループ	252	112	273,336	
スクウェア・エニックス・ホールディングス	69	73	495,130	
コナミグループ	30	16	167,245	
卸売業 (2.6%)				
シークス	447	263	434,476	
小売業 (8.3%)				
エービーシー・マート	—	121	315,477	
MonotaRO	249	97	148,687	
セブン&アイ・ホールディングス	41	22	144,427	

銘柄	期首(前期末)		当期末	
	株数	株数	株数	評価額
	千株	千株	千株	千円
良品計画	77	41	95,889	
ケースホールディングス	171	—	—	
ニトリホールディングス	20	11	247,978	
ファーストリテイリング	17	9	401,488	
保険業 (1.6%)				
東京海上ホールディングス	113	61	267,590	
サービス業 (12.1%)				
日本M&Aセンターホールディングス	649	352	360,914	
ベネフィット・ワン	77	41	90,405	
エムスリー	129	65	136,500	
プレステージ・インターナショナル	933	633	391,116	
エン・ジャパン	30	16	43,309	
リクルートホールディングス	80	43	264,172	
ペイカレント・コンサルティング	134	72	229,926	
セコム	54	33	366,133	
ダイセキ	46	25	100,203	
合計	株数・金額	6,991	4,206	16,400,837
	銘柄数<比率>	57	58	<98.5%>

(注1) 銘柄欄の()内は、当期末における国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注2) 合計欄の< >内は、当期末の純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 株数および評価額の単位未満は切り捨てています。ただし、株数および評価額が単位未満の場合は、小数で記載しています。

投資信託財産の構成

2024年2月26日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
株式	千円 16,400,837	% 98.2
コール・ローン等、その他	308,861	1.8
投資信託財産総額	16,709,699	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

ニッセイ国内グロース株式マザーファンド

資産、負債、元本および基準価額の状況

(2024年2月26日現在)

項目	当期末
(A) 資産	16,709,699,376円
コール・ローン等	275,064,876
株式(評価額)	16,400,837,700
未収配当金	33,796,800
(B) 負債	64,678,822
未払解約金	64,678,412
その他未払費用	410
(C) 純資産総額(A-B)	16,645,020,554
元本	4,841,792,820
次期繰越損益金	11,803,227,734
(D) 受益権総口数	4,841,792,820口
1万口当たり基準価額(C/D)	34,378円

(注1) 期首元本額	8,445,133,686円
期中追加設定元本額	251,608,886円
期中一部解約元本額	3,854,949,752円
(注2) 当マザーファンドの当期末元本額におけるベビーファンド別内訳は、次の通りです。	
DCニッセイ日本株グロースファンド	534,686,878円
ニッセイ日本株グロースファンド(FOF s用) (適格機関投資家専用)	3,922,114,461円
ニッセイ日本株グロースオープン	384,991,481円

損益の状況

当期 (2023年8月26日~2024年2月26日)

項目	当期
(A) 配当等収益	119,137,761円
受取配当金	118,698,484
受取利息	7,819
その他収益金	567,367
支払利息	△ 135,909
(B) 有価証券売買損益	1,991,759,760
売買益	2,642,699,384
売買損	△ 650,939,624
(C) 先物取引等損益	28,903,300
取引益	33,484,200
取引損	△ 4,580,900
(D) 信託報酬等	△ 5,296
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	2,139,795,525
(F) 前期繰越損益金	17,462,050,389
(G) 追加信託差損益金	520,449,366
(H) 解約差損益金	△ 8,319,067,546
(I) 合計(E+F+G+H)	11,803,227,734
次期繰越損益金(I)	11,803,227,734

- (注1) (B)有価証券売買損益および(C)先物取引等損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。
- (注2) (G)追加信託差損益金とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、元本を上回る場合は利益として、下回る場合は損失として処理されます。
- (注3) (H)解約差損益金とは、一部解約をした価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。